

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0772500344		
法人名	医療法人社団日新会		
事業所名	グループホーム夢の森		
所在地	喜多方市熱塩加納町米岡字下平乙608-5		
自己評価作成日	平成25年10月7日	評価結果市町村受理日	平成26年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成25年12月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔でまごころを込めて接しています。</li> <li>・利用者・家族との信頼関係を大切にしています。</li> <li>・地域交流を密にし親睦を深めています。</li> </ul>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職員は明るく、利用者一人ひとりに寄り添った介護をしており、家族との信頼関係が得られ利用者は落ち着いて生活している。</li> <li>2. 地域自治会に加入し沿道のゴミ拾い、役場前に花を飾る、地域の運動会に参加している。地域の中学生在が清掃や除雪ボランティアに訪れるなど地域交流を積極的に実施している。</li> <li>3. 事業所内は清掃が行き届き整理整頓され、快適な生活環境になっている。</li> </ol>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を持ち、管理者と職員は、常に心がけ実践している。	全職員で話し合い事業所理念を作成しているが、地域密着型サービスの意義をふまえた理念になっていない。	法人母体の理念をふまえ、地域密着型サービスの意義を反映した理念を検討して欲しい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会組織に加入させて頂いている。役場前に花を置かせて頂いたり、地元のパラ園見学のお誘い、地区運動会の参加や社協を通じ、中学生による奉仕・除雪ボランティアがあった。	事業所自体が地域の一員として交流しており、沿道のゴミ拾いを行い、パラ園見学、運動会に参加している。また、中学生が清掃、除雪ボランティアに訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の決算総会にて話す機会を設けて頂いた。介護についての相談をお受けできると声かけした。地域からの申込が何件あった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議により、ホームでのケアサービス(事例等)の状況を伝え、意見・助言を頂き、サービスの向上に活かせるよう努めている。	定期的に開催されており、事業所の状況や事業所や地域の課題などについて委員から素直な意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年6回の避難訓練時、市町村担当者に連絡要綱を伝え、協力して頂いている。また、市の介護相談員が、月1回訪問され、ケアサービスの状況報告また協力を得ている。	住民課長が運営推進会議に参加しており、事業所のケアサービスの状況を理解していただいている。防災訓練時にも協力いただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。身体拘束をしないケアを全職員が理解している。また、事業所内研修においても取り入れ、各自勉強している。	身体拘束排除のため、マニュアルを整備し、研修をしている。玄関の施錠をふくめ、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内や事業所内研修にて、虐待について勉強し、虐待のないよう注意し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では必要性のある利用者はいない為、資料に基き各自勉強し、理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に家族に重要事項で説明し、ご理解を得た上、入所日に契約を結んでいる。解約または改定等の際は、利用者家族にお伝えし、理解納得を得て同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、月1回の介護相談員の訪問により、話を引き出していただき、管理者や職員と意見を交換している。家族来所時は、要望や意見を伺い運営に活かせる様努めている。	介護サービス相談員が把握した利用者の意見や面会時に把握した家族の意見、要望などを検討し運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開催し、全員で話し合える機会を設けている。また、日々の申し送り時、職員の気づきを共有し、運営・ケアサービスに反映できるよう努めている。	毎月の職員会議や個別面談で把握した職員の意見、申し送り時の職員提案を積極的に聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は法人運営にあたり、職員がやりがいを持って働ける就業環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度の事業所内研修他、外部研修に職員が交互に参加する機会を設け、勉強しケアに活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連法人とのグループホーム管理者会議を毎月開催し、管理者同士の情報交換をしている。事業所内研修や、市のグループホーム連絡会に出席し、意見交換できる機会を設けて、サービスの質を向上できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族・介護支援専門員から、入所前の情報を基に、本人に寄り添いながら、不安な気持ちなどに耳を傾け、現状の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方と話し合う機会を設け、現在不安な事・要望等家族の思いを聞き取り、反映できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が、今何を必要としているのか見極め、他のサービス利用を含めた対応・助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、いろいろな場面で利用者から教えて頂いたり、相談したりと自己決定ができる関係を築き生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際、プライバシーに配慮しながら歓談して頂いている。また、毎月のお便りで、日常の様子を報告し、家族会にも参加して頂けるよう声かけしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理髪店の外出支援、家族の写真を居室へ飾っている。また、知人へ顔写真付きの暑中見舞い・年賀状を作成し、大切な方々との親睦・関係が途切れないよう支援している。	馴染みの理髪店への外出支援、知人との面会や見舞い、年賀状作成の支援、家族との墓参り、ドライブなどが出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの生活や認知度を把握し、楽しく生活できる環境作りに努めている。また、目配り・気配りし、トラブルを少なくするよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族と再会の折、最近のご様子を伺っている。また、気兼ねなくご来所下さるよう声かけしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人への要望や意向を聞き、また随時家族からも来所時間聞き取りをし情報を得ている。	日常の会話の中で把握した思いや暮らし方の希望をふまえ、家族と話し合い安定した生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、基本情報を作成。本人・家族・担当ケアマネ、入院であれば医療機関等へ情報提供を依頼し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを実施。体調の観察を行い、一人ひとりの生活状況を個別にて記録し、職員間で情報を把握・共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月定例会時に、サービス担当者会議を開催している。その他、必要に応じ話し合いを行い、現状に即した介護計画を作成している。家族は立ち会っていないが、事前に要望等を伺い、反映できるよう努めている。	毎月サービス担当者会議を開催し、入所1ヶ月、その後3ヶ月毎に介護計画を見直すとともに状況に変化が出た場合はその状況に応じた介護計画を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・個別の記録(生活史・申し送りノート)を活用しながら、職員間で情報を共有・実践と、統一したケア・介護計画を検討し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者のその時々生まれるニーズに対し、御家族様と随時話し合いを持ち支援している。その他、ご本人の意思を聞き入れた個別ケアも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	主だった町の行事・家族会での観光・馴染みの床屋への外出また来所頂くなど、地域資源を把握し活用することにより、利用者が楽しく安心して生活が営まれるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き入れ、家族対応も含めた入所前のかかりつけ医への受診を主とし支援している。	本人、家族が希望するかかりつけ医となっており、通院介助は事業所が行うこととしているが、遠方への通院については家族に協力して頂いている。受診結果は電話やお便り等を通して共有しており、緊急時の対応もできる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には、医療専門職(看護師また訪問看護)の体制は整ってはいないが、身体の変化・急変時の対応は、関係医療機関に連絡し、相談受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者との連絡・情報交換を取り合いました。普段の受診の際は、主治医へ日頃の身体・生活状況を伝え、助言・指導を頂き協働を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のありかたについての指針作成は、現在法人と話し合いの段階である。日頃、身体状況の変化がある場合、医療機関・家族へ説明・状況報告している。	重度化した場合や終末期の対応について、本人・家族等に説明し納得が得られており、事業所でできる範囲内で医療機関や家族の協力を得ながら取り組んでいる。なお、重度化した場合等の指針については作成に向け検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受講している。事故発生時のマニュアルも作成しており、職員間でも急変時の対応を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に6回、内1回は消防署員・運営推進委員の方も立会いし、指導・助言を頂き、自治体等の非常連絡網を構築している。	年6回利用者、消防署、運営推進会議メンバーの協力を得ながら、避難訓練などを行っている。また、救命救急の講習会を開催したり、自治体などとの非常連絡網を整備し、協力体制が取られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活を把握し、行動や表情を見て、誇りやプライバシーを損ねないように支援している。	誇りやプライバシーを損ねない接遇を心がけており、職員の利用者への話し掛けや、トイレ誘導の声掛けなど、十分な配慮が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、信頼関係を築きながら本人の思いや希望に寄り添い、自己決定ができるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目配り・気配り・声かけし、利用者のペースに合わせて、一人ひとりの希望に添った生活ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の身体状況に合った洋服または、季節に応じた洋服が着れるよう支援している。理容は地域の床屋へ送迎・来所頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理は、衛生面に留意しながら共に行っている。会食時は、一緒に楽しく食事ができるような雰囲気作りに努めている。	利用者の好みを把握し、野菜の皮むきや刻み、後片付けなど、食事に関連した作業を利用者とともに、職員と利用者が同じテーブルを囲んで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は、毎食毎に記録し、その情報を共有している。また、一人ひとりの能力に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて、利用者のパターンを把握し、排泄能力に合わせた支援を行っている。	排泄チェック表を使用して、習慣やパターンに応じた個別の支援に努めている。また、誘導や介助、失禁時対応にあたっては、羞恥心への配慮やプライドを損ねない声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や繊維を取り入れた献立の工夫、水分補給・適度な運動を心がけ、便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の都合にて、曜日や時間などの変更はあるものの、利用者の体調などを考え、機嫌よくリラックスして頂ける様支援している。希望時は午前中の中の入浴も行っている。	週3回以上、本人の希望やタイミングに合わせた支援をしている。また、リラックスして入浴が楽しめるよう、季節に合わせたゆず湯や菖蒲湯なども行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、その人のペースに合わせている。日中の活動を通じ、安眠できるよう支援している。眠れない時は、温かい飲み物を提供したり、職員と会話やテレビを見たりと、安眠できるよう促がしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんを個々に綴じ、説明書にて理解に努めている。処方薬変更時には、申し送りノートに記入し情報共有している。誤薬を防ぐ為、ダブルチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、本人の能力に合わせ、掃除・洗濯物干しなどをして頂いている。また、地域ボランティアの慰問・誕生会・クリスマス会など行事を取り入れ楽しみ事の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は、利用者の能力に応じている為限られている。年2回の家族会(春は花見・秋はぶどう狩り)に出かけている。また、家族の協力を得、外出される方もいる。	年2回、家族会での外出機会があるものの、一人ひとりの希望に沿った散歩や買い物、ドライブを兼ねた外食などの外出支援が少ない。	短時間でも戸外に出る機会を作り、気分転換やストレスの発散などを図って欲しい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、利用者の金銭管理はホームが行っている。また、希望があれば職員が購入して差し上げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話ができるよう対応している。また、年賀状・暑中見舞いハガキ等、家族・知人に出す際、自筆にて思いを書いていただき、親睦を深められるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファースペース・コタツを配置し、家族的な環境・雰囲気作りと安心感の提供に工夫している。また、壁面には、自作品・装飾品を展示し、季節感を取り入れた環境作りに心掛けている。	居間及び食堂の共用空間が広く取られている。また、季節を感じさせる飾り付けを行ったり、利用者の作品や観葉植物、ソファやこたつ等があり、利用者一人ひとりが落ちついて、居心地良く生活できるよう工夫されている。また、共用空間は整理整頓され、清掃が行き届いており清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファースペースを設け、面会時いつでも自由に歓談して頂いている。また、たみスペースで利用者同士、ゆっくりと寛ぎコミュニケーションをとられるよう工夫・支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	使い慣れた物の持ち込みは少ないが、家族の方の持参された写真・小物を飾っていたり、またご自分の作品を展示し、居心地の良い空間となるよう配慮している。	本人の希望に合わせ、テレビやテーブル、家族写真や自分の作品等を飾ったり、状態に合わせたベッド配置に工夫するなど、その人らしく暮らせるよう支援している。また、居室の床や壁面は清掃が行き届いており清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの活動性が発揮され、戸惑いのないように、各居室の入り口は花の名前と絵を貼って分かりやすくし、また浴室やトイレ等は見やすく大きな文字を表示し安全性に配慮した環境作りに努めている。		